You, Unlimited

RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学

国際学部

2025

Faculty of

International Studies

Globalization and Internationaliza

「グローバル化」と「国際化」

よく聞く「グローバル化」や「国際化」という言葉。同じような言葉に聞こえますが、実はそれぞれ意味することが異なります。ごく簡単に表現するならば、「グローバル化」は、あらゆる事柄が地域や国境を超えて関係することを意味します。それに対して「国際化」は、国境の存在を前提に言語・宗教・文化などの差異を乗り越え、異なる国家間の関係が緊密になることを意味します。龍谷大学国際学部では、このような「グローバル化」「国際化」の違いを理解し、世界を舞台に活躍できるリーダーや多様な他者をつなぐ人材を育成します。

tion
グローバル
スタディーズ学科
世界を舞台に活躍する
リーダーを育成
相互に
一部の科目の
受講が可能
国際文化学科
多様な他者をつなぐ
人材を育成

国際文化学科

Utilizing Cultural Resources for To

古都に現存する近代建築に学び 京都を盛り立てる手立てを考える

「京都」と聞くと、日本を代表する寺社仏閣、趣のある町家など
歴史的建造物を思い浮かべる人が多いのではないでしょうか。
古都のイメージが強い京都は、実は近代建築の宝庫でもあるのです。
このプログラムでは、京都市内に現存するプレモダンな名建築を巡り
文化財的価値と商業的価値を共存させる活用方法を考えます。

林 則仁准教授

明治から昭和初期に建てられた 象徴的な洋風建築の活用法を検討

「リサーチセミナーIII」「プレモダン＆レトロな名建築を巡る」プログラムでは、西洋の様式を取り入れた京都に現存する近代の名建築から、それぞれの時代背景や文化的意義を学び、建築の背後にあるストーリーを探究します。そして、国際文化学的な視点から文化財の特徴を分析し、文化的価値と商業的価値を両立させる活用方法を考えます。
フィールドワークを実行するにあたっては、事前準備も重要な役割を果たします。学生はまず4～5名のグループに分かれ、対象となる建築物に関する情報収集や資料分析を行います。基礎知識を得たうえで、国際文化学的な観点から予備考察を行い、実際の活動に向けた計画書を作成して調査をスタートさせます。

研究のプロセスを体験的に理解し 今後の研究活動の基盤を築く

日本文化の歴史的な発展を築いてきたのは京都の先人たちです。明治以降の西洋文化に理解を示し、近代の洋風建築を誕生させたのもまた、京都の人々です。現地では異なる二つの文化を尊重してきた彼らの先駆的な精神を学び、地域や時代の文化的要素が複合的に合わさった建造物から、文化の多様性と複雑さを学びます。フィールドワーク終了後には事後学修を実施し、京都の新たな観光資源の一つとなりうる文化財をどのように活用していくべきかを探ります。
事前学修からフィールドワーク、事後学修へと続く研究のプロセスは、さらに専門的になる3・4年次の専門演習や卒論演習で取り組む研究活動での土台となるでしょう。卒業論文の制作に必要なプロセスを、先に経験しておくことで、論文完成までの道のりがイメージしやすくなり、より積極的に研究活動に取り組めるはずです。研究をとおして磨かれていく調査力や観察力、分析力といった実践スキルは、社会でも必ず役立つと確信しています。

森本 舞さん・松井 凛子さん

自分たちの興味を深く掘り下げ 近代建築の意義と価値を考える

このプログラムでは、実際に建築物を見ながら歴史的な背景や文化的な価値を探究します。建築物のなかでも特に近代の西洋の建築に興味があった私たちにとって、近代の名建築を巡り、建築に関する知見を深められるこの取り組みはとても魅力的に映りました。
フィールドワークの事前学修では、グループに分かれて対象物の情報や資料を集めて分析し、ゴシックやルネサンス、コロニアルといった特徴的なデザインも細部まで学びます。参

urism

林 則仁准教授

国際文化学科
［専門分野］美術史、建築史・意匠

森本 舞さん

2年生
（大阪府 出身）

松井 凛子さん

2年生
（広島県 出身）

加した当初は趣味の延長線でしかなかったレトロモダンな建築物も、建てられた時代背景やデザインの特徴、文化遺産としての価値などを掘り下げていくうちに学問的な興味へと変わり、フィールドワーク当日は、同じ様式の建物でもそれぞれに個性があることに気づけました。

グループワークで培った協働力も広い視野もすべてが将来の財産に

今回のフィールドワークをとおして、歴史的な建築の背景や意義を解釈する能力が上がると同時に、設計理念や社会的文脈を理解して作品をより深く分析・評価する力が養われたと感じています。また、建築の歴史や様式の変遷を学んでいくなかで視覚的な感性やクリティカルな視点をさらに発展させ、より広い視野で物事をとらえられるようにもなりました。同じ目的に向けてグループの力を結集した経験も、研究活動や就職活動における大きな強みとなるに違いありません。初対面の学生もいるなか、お互いに協力し合って事前調査を進めていくうちに自ずと結束力が生まれ、フィールドワークを実行した際も活発に議論できました。
これからも挑戦心をもって自分たちの興味・関心を積極的に押し広げ、社会に出てからも役立つスキルや知見を身につけていきたいと思います。

国際文化学科のリサーチセミナー

国際文化学科では、学際的な学びを支援するために「リサーチセミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を導入しています。学生は1年次前期に、大学の学びを身につけ、1年次後期には、自らの興味や関心にもとづき、専任教員が提供する言語や歴史、宗教、社会体制など「国際」や「文化」に関する学術的なリサーチ方法を学びます。2年次の「リサーチセミナーⅢ」では、さらに多様なテーマや地域を対象に、専門的な学びを提供しています。例えば、京都でのフィールドワークや海外での語学や文化研修、アートやメディアコンテンツの作成などです。また、「リサーチセミナーⅢ」の代わりに自らが海外留学や海外インターンを予定している場合は、「海外研修（異文化交流）」も選択することが可能です。これらを通じて、「多様な他者をつなぐ人材」に求められる素養を身につけていきます。

※「リサーチセミナーⅢ」のプログラム内容は、開講年度によって異なります。

グローバルスタディーズ学科

Internship Abroad is the First Step toward Realizing My Dream

悔しさをバネに大きく成長できた キッザニアロンドンでのインターンシップ

グローバル化が加速し、海外にも日本人の活躍の場はますます広がっています。
本学部にも、海外で働くことを視野に入れた学生は少なくありません。
そんな学生に向けて、本学部では「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」を開講しています。
海外での職業体験を通して将来の働き方を考える、グローバルなプログラムです。

自分が望む未来を叶えるために 海外インターンシップ参加を決意

私の夢は、将来海外に住みキャリアを積むことです。この夢の実現のために大学２年の後期に、南カリフォルニア大学への提携留学に参加しましたが、残念ながら後悔が残る結果となってしまいました。というのも、同じ大学の仲間や他大学の日本人留学生と一緒にいる時間が長く、その環境に甘えてしまったため、語学能力が期待していたほど向上しなかったのです。そうした経緯もあり、次に海外で勉強できる機会があれば、自分一人で挑みたいとの思いに至りました。そんな中で知ったのが、「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」の存在です。「少人数で海外企業のインターンシップに参加できる」と聞き、迷わずこの授業を受けました。担当の中根先生は、私が将来的に海外で働きたいと考えていることを知っていたので、私の考えや計画を否定せず、この機会を絶対に無駄にしないようにと常に背中を押し

てくださいました。滞在場所の確保や履歴書の書き方、海外で働くためのスキルなど、実務的なことまで教えていただき、本当に感謝しています。大学のサポートも大きく、奨学金や留学サポート奨励金の給付も本当に助かりました。

インターンシップに向けて実践的なスキルを養う事前研修

インターンシップ先を決めるにあたり、私の希望は、英語圏の国で単独での参加が可能ということのみ。企業へのこだわりはありませんでした。さまざまな国のインターンシップ先を検討した結果、最終的に選んだのが、キッザニアロンドンです。インターンシップの準備として、事前に日本のキッザニア甲子園で３週間の事前研修を受けました。事前研修ではキッザニアのコンセプトを学んだ後、お客さまに接する現場に配属され、ロールプレイングの方法や子どもや保護者への接し方などを実践的に学びました。時間配分や子どもへの寄り添い方など、実際に経験してみなければわからないスキルが多く、正直焦りやプレッシャーを感じていました。しかし終えてみると、３週間という短い期間ながら、仕事をするうえでの気配りや思いやりなど、得るものがたくさんありました。

準備万全で挑んだつもりでも越えられなかった高いことばの壁

キッザニアロンドンで働いてもっとも印象的だったのは、従業員一人ひとりが主体性をもち、コンセプトや事業方針を尊重して自分の仕事をしていることでした。決められたルールの中で自分が最善だと思う方法で業務を行い、上司も彼らの意見を尊重しています。何もかも指示通り遂行するのではなく、自分で考えベストを導き出す思考は、海外で働く未来に向けて、見習うべきだと強く感じました。一方で大変だったのは、やはり言語の違いです。英語しか通用しない現地では、お客さまに対しても同僚に対してもことばの壁にしばしば悩まされました。これまでに英語力の向上に最善を尽くしてきたつもりでしたが、相手の言っていることを聞き取れても、自分の意思を相手にうまく伝えられません。何度も言い直した結果、相手に察してもらうことも多々ありました。接客以外の業務は積極的に実行することができたので充実していましたが、自分に英語力があればもっと会話を楽しめたはずですし、同僚ともっと仲良くなれたでしょう。語学はもちろん、コミュニケーションの取り方についても深く考えさせられる経験でした。

ロンドンでの悔しさを忘れずさらなる英語力向上をめざす

今回のインターンシップを通して、自分でもさまざまな成長を感じています。人との接し方やコミュニケーションのあり方を見直し、相手の思いを汲み取って発言できるようになりました。一番はなんといっても、語学学修への意欲でしょう。ロンドンで悔しい思いをした分、今後はより英語力を向上させ、海外で働くようになっても困らない力をつけたいと思っています。

岩城 充祐さん

3年生
（静岡県立伊豆中央高等学校 出身）

グローバルスタディーズ学科の留学プログラム

グローバルスタディーズ学科は、1セメスター以上の留学※を必修にしており、提携留学は、現地の一般学生と机を並べる「正規専門科目留学」をめざします。滞在先はホームステイやキャンパス内の学生寮を予定しており、大学生同士の交流も自然に行われる環境です。提携留学先は、学科の専任教員が個別に交渉し選定しているので、留学中の教育内容などもしっかりと把握、多様性にあふれた大学から選択可能です。また、選択科目として「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」という科目を設置しており、留学後に海外でインターンシップに挑戦することも可能です。

※留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

短期留学プログラム／私費留学

自分の意見を英語で伝える力が養われ、主体的に行動できるようになった

オーストラリアのメルボルンで語学留学プログラムを経験した後、
カナダのブリティッシュ・コロンビア大学で私費留学にトライした髙岸さん。
みんなが意見を交わす自由な雰囲気に、カルチャーショックを受けたといいます。
そのなかで修得したのは英語のスキルと、日本では避けられがちな「自己主張」の姿勢でした。

外から自国を見つめ直した オーストラリア留学

私は2023年に短期留学プログラムでオーストラリアのメルボルンへ1カ月、2023年にカナダのバンクーバーへ4カ月、留学しました。オーストラリアでは、SDGsの観点から動物福祉についてグループワークで学びました。動物に対する国ごとの認識を共有し「日本」を客観的に考える経験は、自分の視野を広げるきっかけとなりました。

カナダ留学で多様な人と交流し 伝えることの大切さを痛感

2度目の留学先に選んだブリティッシュ・コロンビア大学は、英語力アップをめざす私に最適の環境でした。カナダ文化に関するディスカッションや現地の方にお話をうかがうフィールドワークを通じ、リスニングとスピーキングの力が確実に向上しました。学生主体のアクティビティや友人との旅行など、授業外でもネイティブスピーカーと頻繁に交流し、実践的な英語が身につきました。ただ、最も身に沁みて学んだのは、語学力以上に自己主張が国際交流では重要という事実です。学生も先生も率直に話し合う光景に、衝撃を受けました。多民族国家カナダには異なる価値観の人が多いため、コミュニケーションの際は積極的に意見交換し、お互いを理解する必要があると気づかされました。

留学で培った主体性を活かし 自分らしい道を進みたい

留学前の私は自己主張が苦手でしたが、いろいろな人と関わり刺激を受けることで、自分の考えを発信できるようになりました。カナダ留学で印象深いのは、”Vancouver is colorful, and it means interesting（バンクーバーは色とりどりで面白い）”と言われたことです。多様な声が飛び交えば衝突や軋轢が起きるかもしれませんが、同時に相互理解が深まり、新しい考え方も生まれます。自分の意見を伝えつつ相手の意見も尊重し、お互いの価値観を更新する。その営みが本当の多様性かもしれないと教えてくれた留学生活でした。今後は、より英語力に磨きをかけることはもちろん、主体的に行動し、自分らしい人生を歩んでいきたいです。

髙岸 さくらさん
国際文化学科 3年生
（滋賀県立彦根翔西館高等学校 出身）

バークレー校ならではの授業で心理学の面白さに目覚める

グローバルスタディーズ学科は1セメスター以上の留学が必須ですが、もともと英語を使ってさまざまな国の人と関わりたかったので、カリフォルニア大学バークレー校で正規科目を受講できるプログラムは渡りに船でした。私が受けた授業は、国際問題を考察する“Critical Issues in Global Studies”や、ブロードウェイミュージカルを見てアメリカ文化を知る“English learning through Broadway Musicals”などです。特に”Psychology of Personality”と”Emotional Intelligence”は、心理学に強い同校ならではの面白い内容で、その分野に興味を抱く入口となりました。

夜遅くまで開いているカフェで勉強「学び」の楽しさに胸が躍って

留学先で驚いたのは、「知」へのモチベーションの高さです。学生は積極的に質問や発言をし、授業を自分たちでつくっている雰囲気でした。先生方も教育熱心でレポートやリーディングの宿題をこなすのは大変でしたが、図書館やカフェが充実しているのでそれらを利用して学業に取り組みました。自然豊かでサンフランシスコに近いなど、気分転換しやすい土地柄もありがたかったです。そのような環境で過ごすうち勉強が楽しくなり、明確な目標をもって学ぶ学友からはたくさんのインスピレーションを受けました。

ありままの自分と他人を受け入れ、素直に人と関わり、成長していきたい

留学で学んだことは3つあります。1つ目は、自分に合った道を選ぶ。選択科目の内容が難しく科目を変更して落ち込んだとき、友人から「君は方向を変えただけさ」と励まされ、自分を大事にするようになりました。2つ目は、他人と比べない。多様なルーツのある人と触れ合うなかで、自分もありのままでいようと前向きになれました。3つ目は、人への感謝です。夢を語らい、励まし合い、支えてくれた人たちがいたからこそ、笑顔で留学を締めくくれました。これら3つの学びは一生の宝物です。留学体験を糧に、将来は日本と海外をつなぐ架け橋になりたいです。

山崎 茉也さん

グローバルスタディーズ学科 2年生
（兵庫県立芦屋国際中等教育学校 出身）

留学プログラム

学ぶことに熱い街ぐるみの環境で勉強の純粋な楽しさを知った

向学心旺盛な若者が世界中から集うことで知られる、カリフォルニア大学バークレー校。
本学グローバルスタディーズ学科からの留学生は、現地学生と一緒に、
バークレー校の正規科目を英語で学修できます。
語学力はもちろん最先端の知識も修得しながら、国際交流ができるプログラムです。

Hot Topics

国際学部の取り組み

1 GS IC 留学しやすい学修環境

グローバルスタディーズ学科

「英語を学ぶ」から、「英語で学ぶ」へ
正規専門科目受講をめざす提携留学

グローバルスタディーズ学科は、1セメスター以上の留学※を必修にしています。本学科の提携留学は、海外大学の附属機関で英語を学ぶ「語学留学」のほかに、現地の一般学生と同じ授業を履修する「正規専門科目受講」をめざします。滞在先もホームステイやキャンパス内の学生寮を予定していますので、大学生同士の交流も自然に行われます。

※ 留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

国際文化学科

国際文化学科では留学を必修としていませんが、強く推奨しており、留学先の学修成果を国際文化学科の単位として認定することで、4年間での卒業が可能な留学制度を整備しています。また、1セメスター以上の長期留学（私費・交換）では龍谷大学の授業料を免除※するなど、経済的なサポートも充実させています。

※ ただし、留学在籍料（半年あたり15万円程度）と諸経費の納入が必要です。

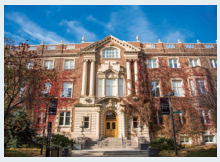
［提携留学先一覧］

［アイルランド］
ユニバーシティ・カレッジ・コーク

［アメリカ］
カリフォルニア大学 バークレー校

［アメリカ］
南カリフォルニア大学

［アメリカ］
南ミズーリ州立大学


［カナダ］
アルバータ大学

［カナダ］
ランガラカレッジ

［カナダ］
レイクヘッド大学

［オーストラリア］
タスマニア大学

［オーストラリア］
ディーキン大学

［ニュージーランド］
ワイカト大学

2 GS 「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」で海外インターンシップに挑戦

グローバルスタディーズ学科では、必修留学を終えた学生の次のステップアップとして、「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」を開講し、将来海外で活躍したい学生の実践の場を提供しています。本講義では、企業や国際機関、行政組織やNGO／NPOなど幅広い職業分野における海外でのインターンシップに2週間～6週間程度（合計就労時間40時間以上）従事します。インターンシップの事前・事後では、ビジネスマナーやメール・履歴書の書き方、海外渡航先で起こりうる問題にどのように対応していくかについてを学修します。また、インターンシップ前後の学生が一緒になり、相互の情報共有や学び合い（ピア・エデュケーション）を実践します。

GS グローバルスタディーズ学科
IC 国際文化学科

3 IC 2年次以降のカリキュラムを自身でコーディネート

2023年度国際文化学科入学生よりコース制を廃止し、2年次以降は、卒業要件単位である50単位分の科目を自身でコーディネートできるようになりました。共通外国語としては、英語・中国語・フランス語・コリア語以外にもスペイン語・ドイツ語・ロシア語・ポルトガル語・ペルシア語・アラビア語・トルコ語の11ケ国語と、幅広い言語を修得することができます。また、「比較宗教」「地域研究」「人間と共生」「メディアと社会」「芸術・表現」の5科目群では、より専門的に「世界を学び、私を知る」ことができる多種多様な科目が開講されています。その他にもキャリア関連科目や国際ツーリズムプログラム（旅行・観光関連科目）といった科目を自身の将来を見据えて履修することが可能です。座学以外にもリサーチセミナーIII（実践系科目）では、多様なテーマや地域を対象にフィールドワークや海外での語学・文化研修、アートやメディアコンテンツ制作など「多様な他者をつなぐ人材」に求められる素養を身につけることができます。「リサーチセミナーIII」の代わりに自らが海外留学や海外インターンを予定している場合は、「海外研修（異文化交流）」を選択し、自身が設定したテーマに沿って学修します。上記科目をどのように組み合わせて履修していくかは、個人の選択に任せられていますので興味・関心や将来を見据えてコーディネートをすることができます。

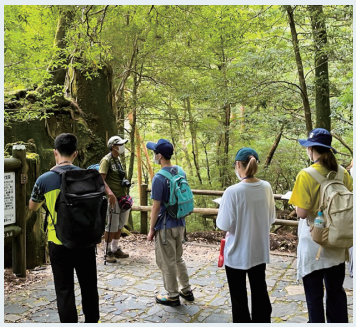
※50単位中10単位は、3年次以降に演習または国際文化Study ProjectA～Dを履修する必要があります。

4 IC 令和5年度総合旅行業務取扱管理者試験に国際文化学科生6名が合格

旅行会社で旅行商品を販売するために必要な国家資格である旅行業務取扱管理者の資格試験のうち、最難関の「総合」に国際文化学科生が6名合格しました。（「総合」の他に「国内」と「地域限定」があります）。本試験は、全国での合格率が7.9％（合格者167名／受験者2,102名）という非常に難しい国家試験であり、中でも全国で合格した大学生がわずか21名しかいないという中での快挙です。国際文化学科では、国際ツーリズムプログラム（ITP）を設置し、旅行・観光業界をめざす学生の資格試験合格もバックアップしています。

5 GS IC 学部の取り組み・イベントをSNSで発信

国際学部では、学修生活における学生の取り組みや学びの姿をInstagramとX（旧Twitter）をとおして発信しています。
SNSをフォローして、よりリアルな目線での学部の学びを知ってください。



4-Year Studies

学部サイト

4年間で何を学ぶ？

世界を舞台に活躍するための
幅広い教養とコミュニケーション能力を修得する

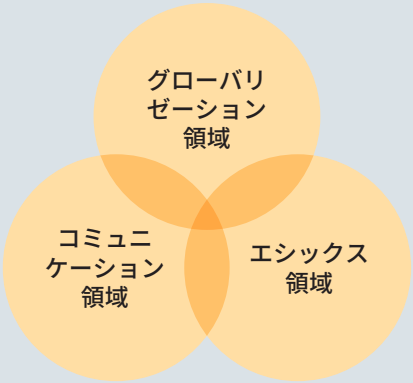
高い語学運用能力をベースに留学などで国際感覚を磨く

グローバルスタディーズ学科では、専攻科目の約90%が英語または英語＋日本語で開講され、高度なコミュニケーション能力を養います。
国際文化学科では、英語を中心とした11ケ国語の幅広い外国語教育をとおして、国境や文化の違いを超えて考える力を養います。

グローバル スタディーズ学科

世界を舞台に活躍するリーダーを育成

グローバルスタディーズ学科では、1セメスター以上の留学※が必修、TOEIC®L&R730点などを卒業要件としています。世界情勢を複眼的に学ぶ専門科目教育をとおして、グローバルな視点からの知識と思考力、文化や習慣の異なる人々と協働するためのコミュニケーション能力、世界でも通用する倫理観を身につけます。

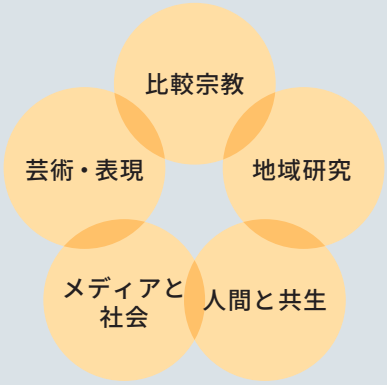


※ 留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

国際文化学科

多様な他者をつなぐ人材を育成

『世界を学び、私を知る』をキーワードに、世界の多様な言語と文化を学び、〈私〉を取りまく文化の理解を深め、世界に向けて日本文化を発信できる人材、異なる文化間に生じる問題を調整することのできる人材、そして国際社会における多様性の尊重に貢献できる人材を育成します。そのために、学生自身の関心にもとづき、以下の5科目群等から科目を選択して学びを深めます。



グローバルスタディーズ学科

1年次		2年次		3年次		4年次	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
外国語・学科科目の基礎をしっかり身につける		専門的な学びに踏み込み、1セメスター以上の留学へ※		1〜2年生で培った英語力を活かす専門講義科目がスタート		4年間の学びの集大成 英語による卒業論文作成へ	

学科外国語科目

学科基礎科目

留学プログラム

学科専攻科目

- グローバリゼーション領域 グローバルな視点からの知識と思考力
- コミュニケーション領域 他国の人たちと論議できる英語力
- エシックス領域 世界で通用するゆるぎない倫理観
- グローバリゼーション領域 + コミュニケーション領域
- コミュニケーション領域 + エシックス領域
- グローバリゼーション領域 + エシックス領域
- グローバリゼーション領域 + コミュニケーション領域 + エシックス領域

卒業時の英語力を保証

グローバルスタディーズ学科では、右のいずれか以上の点数を取得することが卒業要件の1つ。これらのスコアは、企業が英語力のある人材と認めるレベルで、就職活動の際にアピールできます。

TOEIC® L&R	IELTS™	TOEFL®
730点	6.0	iBT 80 PBT 550

グローバルキャリア入門

リサーチ方法論A

リサーチ方法論B

プロジェクト演習

演習 I・II

演習III

演習IV

卒業論文

海外キャリア実践 I・II

※留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

国際文化学科

1年次		2年次		3年次		4年次	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
大学での学びに向け、語学とその他の学びの基礎を身につける		さらに高度な外国語を学び、自分に合った科目群や科目を選択		より興味・関心に合わせた専攻科目やゼミで学ぶ		これまで取り組んできたテーマを卒論にまとめあげる	

学科外国語科目

リサーチセミナー I

リサーチセミナー II

リサーチセミナーIII

専門演習A

専門演習B

卒論演習A

卒論演習B

国際文化 Study Project A〜D

海外研修（北米、ヨーロッパ、東アジア、東南アジア、オセアニアなど）

科目群選択（以下の科目群5つから選択して履修）

比較宗教	仏教・キリスト教・イスラームなど世界の宗教文化の特色を理解し、共通点や相違点を比較分析する。宗教の観点から異文化理解と実践的交流をめざす。
地域研究	地域特有の文化や社会・経済、人々の生活を比較考察して、アジア・太平洋地域を中心とした相互理解をめざす。また、京都の地域文化を多角的に学ぶ。
人間と共生	人と自然、人と人の共生の現状と可能性をさぐる。グローバル化や都市化にともなう人の移動や住環境、自然や社会の変化を対象として、理論とフィールドの両面から探究する。
メディアと社会	グローバル化と情報化が進む現代社会におけるメディアの役割・意義・課題などを探究する。また、自ら情報を発信する際に必要となる技法や倫理を学ぶ。
芸術・表現	芸術をとおして、文化を国際的な視点で学んでいく。美術、舞台芸術、文学、漫画などのアート表現を中心にそれらの理論と技法を多角的に研究する。

国際ツーリズムプログラム
「観光客」「観光業」「観光地」など、国際的な観点から多面的に学びます。

短期留学・長期留学（交換留学・私費留学・Ryukoku Intercultural Program）

［取得可能な免許・資格］

- 中学校教諭一種免許状（英語）
- 高等学校教諭一種免許状（英語）
- 学芸員
- 本願寺派教師資格（受験資格）

［めざす職業・進路］

グローバルスタディーズ学科
- 民間企業の国際部門
- 国際機関職員
- NPO／NGO団体職員
- 翻訳・通訳者
- 英語科教員（中学校、高等学校）
- 海外大学院進学

国際文化学科
- NPO／NGO団体職員、公務員
- 企業（航空業、運輸業、貿易、観光業、商社、IT、石油関連）
- 英語科教員（中学校、高等学校）、学芸員、日本語教員、研究者
- マスメディア（テレビ、新聞、出版、広告）

Seminars

ゼミ紹介

グローバルスタディーズ学科　斎藤 文彦ゼミ

グローバルイシューに対する当事者意識を醸成

国際社会の諸問題と向き合い、持続可能な社会をめざす

尖 捺嬉さん
グローバルスタディーズ学科 4年生
（大阪府 樟蔭高等学校 出身）

現在世界は、気候変動や貧困、海面上昇など数々の問題に直面しています。これらのグローバルイシューを解決するために、私に何ができるのか。そう考えるうちにSDGs（持続可能な開発目標）に関心をもつようになり、斎藤ゼミへの所属を決めました。

本ゼミでは、自分の考えを説明・共有するプロセスを重視しており、課題図書の精読のほか、ディベート、ディスカッション、発表を主に行っています。学外の活動もゼミの一環であり、前回は徳島県上勝町でフィールドワークを実施しました。上勝町は「ゼロ・ウェイスト」の町として知られており、ごみをゼロにするためにさまざまな取り組みが行われていました。SDGsの好事例を目の当たりにしたことは、私にとって意義深い経験となりました。

卒業研究は「家畜産業から排出される温室効果ガス削減について」をテーマとします。牛などの反芻動物のげっぷには、温室効果ガスであるメタンが含まれており、その排出量の削減が畜産業において大きな課題となっています。この問題の探究によって、地球温暖化だけでなく、温暖化と密接に関連する世界の諸問題にもアプローチできる方法を見つけられるかもしれません。グローバルイシューの解決に寄与しうる研究と位置づけ、考察を深めていきたいと思います。

私はゼミをとおして、自らの考えをわかりやすく説明する力、表現する力が大きく向上しました。初めの頃は自分の意見をうまく伝えられなかったものの、ディスカッションや発表によって鍛えられ、思いを言語化できるようになりました。国際問題に対して当事者意識をもち、解決策を考える姿勢が培われたのもゼミ活動の賜物です。これまで積み重ねてきた学びは、今後も私の成長の糧となるに違いありません。

［その他のゼミテーマ］

- ブラジル音楽と軍事政権
- 貧困解消のための国際協力
  －フィリピンの事例を中心に－
- The Relationship Between Liberalism and Euthanasia
- 「国際社会の平和と安全」への責任？
  －国連安保理の機能不全－
- 「赤毛のアン」の翻訳の比較とスコポスの考察
- カンボジアにおいて教師の地位向上を図ることによって貧困を解消することは可能か
- Future prospects of Japanese English education from the aspects of Native Speakerism

教員・
スタッフ紹介

国際文化学科　カルロス マリア・レイナルースＤ.ゼミ

外国人労働者をめぐる課題を多角的に検討

当事者との対話をとおして、問題の本質・実態をとらえる

藤田 康介さん
国際文化学科４年生
（大阪府 大阪学芸中等教育学校 出身）

カルロスゼミは「外国人労働者」を専攻テーマとしています。国内で外国人労働者が活躍する一方、日本の外国人材受入れ制度は「労働力の搾取である」と国内外から批判を集めており、多くの課題を内包しています。こうした点に問題意識をもち、外国人労働者という切り口から日本の社会課題を理解したいと考え、本ゼミに所属しました。

本ゼミは、学生主体で活動を行うのが特徴です。グループワークやディベートが活発で、さまざまな意見が飛び交い、自分とは異なる視点を多く得られます。課外活動もさかんで、今年は私たちが一から企画して、タイへのフィールドワークを敢行しました。特に印象深いのは、在日外国人の方をお招きしてインタビューを行った授業です。実際にお話を伺うことで、日頃メディアで報道される在日外国人の実情が、いかに現実と乖離したものであるかがわかりました。生の声を聴く大切さを実感し、社会課題の解決策を模索するには、確かな情報を主体的に見聞きする姿勢が不可欠なのだとの気づきを得ました。

卒業論文では「中国人留学生進路選択－中国の過酷な競争社会を背景に－」を主題としました。調査過程では、中国の文献にあたるだけでなく、中国人の友人にもインタビューを行います。当事者から生きた情報を得る重要性を知ったゼミでの経験を大いに活かし、４年間の締め括りにふさわしい卒業制作にしたいと思います。

ゼミ活動を通じて、視野だけでなく関心の幅も大きく広がり、世の中のあらゆる問題や事象に関心をもてるようになりました。それは、学生の挑戦を惜しみなくサポートする先生の存在、主体性を重んじるゼミという環境があったからこそです。何事も恐れず挑戦する姿勢が身につき、大きく成長できたと感じています。

［その他のゼミテーマ］

- イスラーム世界が与えた色の意識
  －タイルと建築から紐解く色の重要性－
- K-POPが世界で熱狂されているのはなぜか
  －世界進出を成功に導いた4つの要素の重要性－
- 新疆（ウイグル）自治区の人権問題について
  －国内外の動きと中国の世界への影響力－
- 外国語学習に対する動機の比較
  －日本留学生と中国留学生の場合－
- どのように清水寺は有名な観光地になれたのか
- 『レ・ミゼラブル』の中の女性
- アニメ聖地巡礼研究を再考する
  －観光学的研究枠組みから未来へ展望－

Life after Graduation

Graduate's Interview

滋賀県公立中学校 勤務

山根 美里さん

国際文化学科 2022年卒業
（滋賀県 滋賀短期大学附属高等学校 出身）

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

教員になる夢を叶えるため、教職課程はもちろん、日本語学校で日本語教師の資格取得、ニュージーランドへの語学留学などさまざまな努力を重ねました。多くの人の価値観に触れながら、先生・生徒の両方の立場で語学教育を経験できたことは大きな財産となっています。3年次以降は教職の自主ゼミに参加し、教員採用試験に向けて本格的に準備を進めました。学びと挑戦の連続を経て、教育者としての引き出しが格段に増えたと思います。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

現在は中学校で担任と英語教諭を務めています。生徒に対して心がけているのは、固定観念に縛られず、相手の考えを受け入れる姿勢です。所属や国籍の異なる人との出会いを通じて身についた傾聴力は、教師の立場から生徒と向き合うベースになっています。大学の教職課程にとどまらず、日本語教師資格や語学留学にも挑戦したおかげで視野も広がりました。生徒の心に火をつける教師となるべく、今後も精進を重ねていきます。

My Background

大学1・2年生

担当教員からの紹介がきっかけで、日本語教師の資格取得をめざしました。教えることの難しさを肌身で感じる貴重な経験でした。

大学3年生

留学先のニュージーランドでは、語学学校で英語を学修。さまざまな出会いや異文化交流を経て、世界が大きく広がったと感じます。

大学4年生

教職課程の授業が徐々に本格化。4年間の必死の努力と仲間同士の支え合いがあったから、教員採用試験に無事合格できました。

現在

中学校の担任・英語教師として教壇に立つ日々。生徒に気づきを与えられる教育者となることが、現在の目標です。

Graduate's Interview

日本航空

客室乗務職 勤務

上村 笑理さん

グローバルスタディーズ学科 2019年卒業
（京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身）

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

GS学科では9割の専門科目が英語で行われ、自然に困難を乗り超える力と失敗を恐れない心が培われたと思います。授業後には留学生語学サポーターのボランティア、学部パネルディスカッションの参加、毎日語学勉強室に足を運ぶなど英語漬けの日々を送り、2ヶ月間でTOEIC300点UPに成功しました。現在の仕事でも「chance favors the prepared mind」と心の持ち方を変え、果敢に挑戦することを心がけています。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

自ら積極性にコミュニケーションを取り、話しやすい雰囲気を作ることを心がけています。アメリカ正規留学の経験より、まず自分が相手に興味をもって話しかけるということが言語の壁をなくす鍵だと感じました。現在の職場では、海外基地乗務員と働くことも多いですが、常に「わからないことはないか」「何か手伝えることはないか」と自ら話しかけ、雰囲気作りを大切にし、心のベクトルを合わせ、一便一便大切にフライトしています。

My Background

大学1・2年生

留学生のサポーターを務めました。その頃から京都観光をしていた経験が現在の「JALふるさと応援隊」の活動につながっています。

大学3年生

留学先での専攻は対人心理学でしたが、課題は想像以上に過酷でした。ダンス部として大学のイベントでショーに参加できたことは一生の思い出です。

大学4年生

人とのご縁に感謝するように育ててくれた両親へ自身の筆アートをプレゼント。辛い就職活動でも常に陰から応援してくれた1番の理解者です。

現在

一期一会のご縁に感謝し、相手を思いやる細やかな心遣いを大切にしています。言語を超えて心が通じる瞬間にやりがいを感じます。

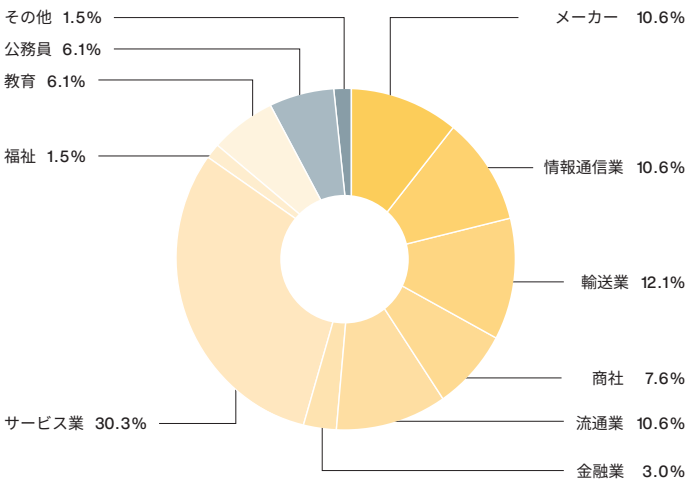
Careers

国際学部の就職

就職状況（2022年度卒業生）

グローバルスタディーズ学科

グローバルに活躍できる進路をめざし、
教員が万全のサポートを行う



［主な就職先］

- 公益財団法人国際人材育成機構
- 株式会社JTBグローバルマーケティング＆トラベル
- 株式会社ジェイアール西日本ホテル開発
- ホテルニューアワジグループ
- 株式会社ミリアルリゾートホテルズ
- アイリスオーヤマ株式会社
- 株式会社神鋼環境ソリューション
- 株式会社ワコール
- スイスポートジャパン株式会社
- 株式会社近鉄エクスプレス
- 株式会社阪急阪神エクスプレス
- 日鉄物産株式会社
- 株式会社ビジョナリーホールディングス
- 住友生命保険相互会社
- みずほ証券株式会社
- 札幌市役所
- 奈良市役所
- 神戸大学大学院
- 同志社大学大学院
- 龍谷大学大学院　など

京セラ株式会社 内定

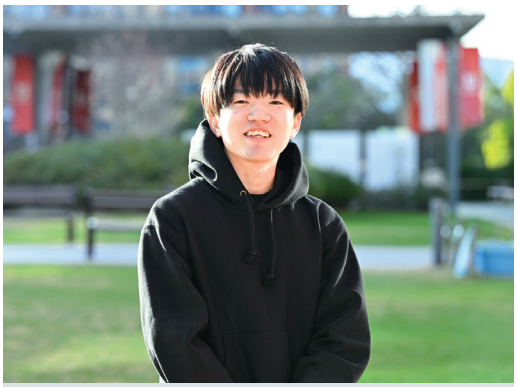
学内で異文化コミュニケーションを学び、異なるバックグラウンドをもつ児童を支援するボランティア活動で実践しました。その過程で身についた柔軟な思考力と対話力は、面接にも役立ちました。自分の思いが一度で伝わるよう、考えや状況をことばにすることへ注力した結果が、内定につながったと思います。

三村 優菜さん
グローバルスタディーズ学科 4年生
（大阪府立千里高等学校 出身）

株式会社JTB 内定

在学中のタスマニア留学で他国の文化や多種多様な価値観に触れ、視野が広がると同時に自国の良さを見直しました。それを機に「日本の魅力を世界中に発信したい」という強い思いにかられ、旅行業界をめざすと決めました。留学に挑んだチャレンジ精神を軸に、旅をとおして感動や出会いを生み出したいです。

二村 颯さん
グローバルスタディーズ学科 4年生
（奈良県立平城高等学校 出身）



株式会社サイバーエージェント 内定

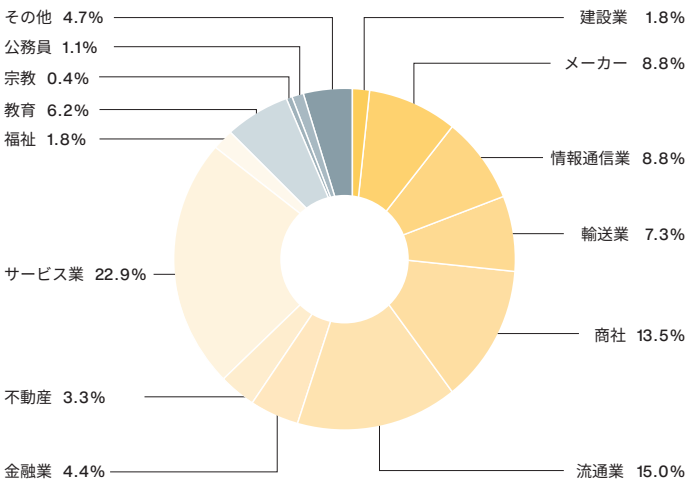
就職活動とアメリカ留学の時期が重なったため、オンラインを積極的に活用して、企業の方と何度も面接・面談を行いました。時間と場所の制約を乗り越え、無事に内定をいただきました。龍谷ミュージアムにカフェを立ち上げた経験も、自分の自主性や行動力をアピールするのに役立ったと感じています。

前田 滉太さん
グローバルスタディーズ学科 4年生
（兵庫県立加古川西高等学校 出身）

資格・
就職情報

国際文化学科

「世界を学び、私を知る」国際文化学科の学びから
異なる文化間に生じる課題を解決できる人材となり、多彩な進路へ



［主な就職先］

- ANA大阪空港株式会社
- ANA関西空港株式会社
- 近畿日本鉄道株式会社
- 西日本旅客鉄道株式会社（JR西日本）
- 株式会社大塚商会
- ルイ・ヴィトンジャパン株式会社
- 日本マクドナルド株式会社
- Blue Bottle Coffee Japan合同会社
- 株式会社三菱UFJ銀行
- ソフトバンクグループ株式会社
- 株式会社リクルートホールディングス
- 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- 株式会社星野リゾート
- 大和ハウス工業株式会社
- アース製薬株式会社
- 文化シヤッター株式会社
- 国税庁
- 大阪市役所
- 大津市役所
- 大阪府教育委員会　教職員採用グループ　など

京都府庁 内定

外国人労働者をゼミのテーマに取り上げ、フィールドワークを通じて日本で働くフィリピン人と異文化交流を行いました。国も文化も違う外国人と親交を深めた経験は、地域における人間関係の構築にも活かせるに違いありません。地域の基盤づくりに注力し、生まれ育った京都を盛り立てていきたいと思います。

仲西 悠さん
国際文化学科 4年生
（京都府立北桑田高等学校 出身）

野村證券株式会社 内定

面接では、事前に決めていた内容にこだわりすぎず、将来の展望や持論を自分のことばできちんと伝えられるよう心がけました。コロナ禍の学生生活で鍛えられたコミュニケーション力と状況を把握する力が役立ったと感じます。これからも学び続ける姿勢を貫き、教養豊かで深みのある大人になりたいです。

中本 彩花さん
国際文化学科 4年生
（大阪府立泉北高等学校 出身）

全日本空輸株式会社 内定

ANAの客室乗務員を目指すうえで、相手の立場で物事をとらえるよう努めました。相手がどのような印象を抱くのかと意識することが、客室乗務員には重要な要素だと考えたからです。また、カナダ留学をとおしグローバルな視点をもつこともできました。今後はお客さまの心を機敏に察知し、快適な空の旅を提供していきたいと思います。

栗田 歩さん
国際文化学科 4年生
（愛媛県立松山北高等学校 出身）

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育んでいきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 国際学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け容れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。

深草キャンパス	京都市伏見区深草塚本町 67 Tel 075-645-5645 world@ad.ryukoku.ac.jp
大阪、奈良、兵庫から好アクセス	JR 「大阪」駅 → 約42分 京阪「京橋」駅 → 約41分 近鉄「奈良」駅 → 約43分 JR「三ノ宮」駅 → 約63分

https://www.world.ryukoku.ac.jp

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2024年4月発行